

エスカード牛久ビル3階 9年ぶりに新企業を誘致

牛久市は市街地の活性化を図るとともにJR牛久駅西口にあるエスカード牛久ビルの「空き床」解消に取り組んできました。そしてこの度、新たに障がい者就業支援を展開する「株式会社スタートライン」がエスカード牛久ビルに進出し、令和8年1月5日から事業を開始しています。これにより、「中心市街地の賑わい」と「市内における新たな雇用」が創出されます。

企業誘致への取り組み



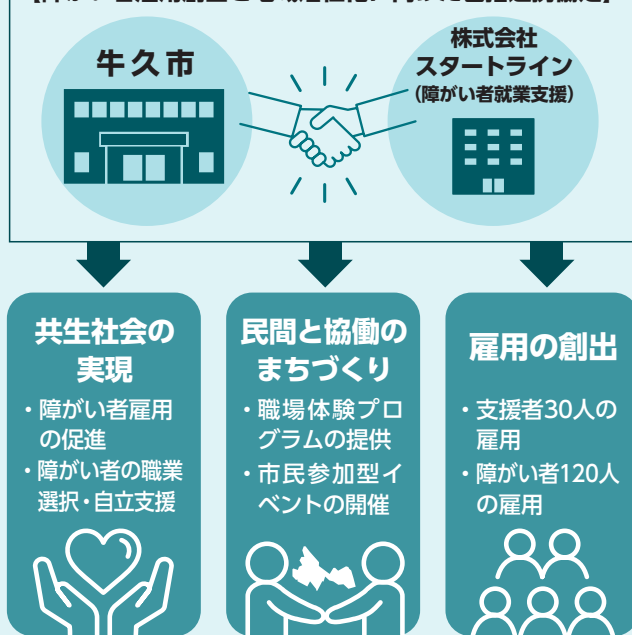
エスカード牛久ビル 3階フロア

市は商業施設の活性化とまちの賑わい、魅力の創出を目指し、企業誘致に取り組んでいます。エスカード牛久ビルでも、大型店舗撤退後、長年「空き床」解消が課題となっていました。しかし、ここ数年はスーパーや飲食店が新店舗で、賑わいを戻しつつあります。そこで、さらなるまちの活性化のため、令和6年4月新しく「牛久市特定中心市街地事業所開設等補助金制度」を創設し、事業所を含めた誘致活動に取り組んでいます。

この度、「株式会社スタートライン」が本制度第1号認定となり、令和8年1月にエスカード牛久ビルにオープンしました。「空き床」解消だけでなく、市の経済の活性化と雇用の拡大も期待されます。

多様な雇用の創出

【障がい者雇用創出と地域活性化に向けた包括連携協定】



共生社会の実現に向けて障がい者雇用の促進が求められる中、市においても障がい者が安心して働き、活躍できる環境づくりが必要です。前記「株式会社スタートライン」は、さまざまな障がい者雇用支援サービスを展開する企業で、**Diverse Village USHIKU**として当市に進出しました。



特性や成長に合わせた働き方を選べる環境となっています。また、進出に伴い、市と同社は令和7年6月に「障がい者雇用創出と地域活性化に向けた包括連携協定」を締結しました。この協定では障がい者や高齢者支援を含む、地域福祉の向上を目的としています。障がい者就労支援を通じて誰もが自分らしく生きる社会を目指し、市と同社は相互連携と協働により障がい者の共生社会の実現、地域活性化を推進していきます。



1月8日のオープニングセレモニーには関係者ら約90人が参加。施設完成を祝うテープカットと、式典後には関係者向けの施設案内が行われました。オープン当初、3社、10人が施設を利用。利用予約も入っており、順次受け入れていく予定です。今後のDiverse Village USHIKUの発展が期待されます。

コーヒー豆焙煎、ハーブ・葉物野菜の生産、オフィスワークの3つのサービスを提供。サービスを利用する企業が入居し、それぞれの企業が拠点を構え、障がい者を雇用します。利用企業に雇用された障がい者は業務習熟度や成長に合わせた働き方を選べる環境となっています。



ダイバース
Diverse
Village
USHIKU